

平成27年度 中間決算概要

1. 連結決算概要（経営成績）

単位：億円 [単位未満切捨て]

区 分	H26年度 上期実績 A	H27年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H26年度 通期実績	H27年度 通期見込 ※
			B-A	(%)		
営業収益	4,620	4,764	143	3.1%	10,887	10,684
高速道路事業	4,290	4,419	129	3.0%	10,312	10,004
(料金収入)	4,012	4,158	145	3.6%	7,774	7,925
(道路資産完成高)	242	228	△13	△5.4%	2,454	1,995
(その他の営業収益)	35	32	△2	△8.1%	83	83
関連事業	354	367	12	3.5%	629	741
(SA・PA事業)	239	234	△5	△2.3%	435	430
(受託・その他の事業)	115	133	18	15.7%	193	310
セグメント間取引の消去	△24	△23	1	-	△54	△60
営業費用	4,310	4,422	111	2.5%	10,818	10,624
高速道路事業	4,003	4,102	98	2.4%	10,268	9,964
(道路資産賃借料)	2,772	2,884	112	4.0%	5,601	5,673
(道路資産完成原価)	242	228	△13	△5.4%	2,454	1,995
(管理費用等)	989	988	△0	△0.0%	2,212	2,295
関連事業	330	343	12	3.7%	603	720
(SA・PA事業)	215	208	△7	△3.3%	409	405
(受託・その他の事業)	115	135	19	17.0%	194	314
セグメント間取引の消去	△24	△23	1	-	△53	△60
営業利益	310	342	31	10.1%	68	60
高速道路事業	286	317	31	11.0%	43	39
関連事業	24	24	0	0.2%	25	21
経常利益	324	356	32	10.0%	100	92
親会社株主に帰属する中間純利益	243	231	△11	△4.8%	102	70

※) H27年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

(注) 当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

2. 高速道路事業の営業概況(連結)

(1) 平成27年度上期の損益状況

- 高速道路事業の営業収益のうち料金収入は、交通量の増加や平成26年度に実施された激変緩和措置※の影響等により、前年同期比145億円増の4,158億円となりました。
 営業費用のうち、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」といいます。)に対する道路資産賃借料は、前年同期比112億円増の2,884億円となりました。また、管理費用等は、前年同期ほぼ同額の988億円となりました。
 以上のことなどから、平成27年度上期における高速道路事業の営業利益は、前年同期比31億円増の317億円となりました。
 ※利便増進計画に基づく割引の終了により、平成26年度より地方部の休日割引は5割引から3割引になりましたが、激変緩和措置として同年4月から6月までの間は引き続き5割引とされました。
- 当社が建設した道路資産は、工事完了後に高速道路機構へ帰属し、同時に当社が道路建設のために負担した債務は、高速道路機構へ引渡します。
 平成27年度上期においては、圏央道(神崎IC～大栄JCT)の開通などにより、道路建設完成までに要した費用である道路資産完成原価を228億円(前年同期比13億円減)計上し、債務引渡し額である道路資産完成高を同額計上しています。

(2) 高速道路事業の損益の特徴

- 当社においては、高速道路の料金収入は下期に比べて上期のほうが多く、管理費用は下期のほうが冬期の雪氷対策費用などにより、上期に比べて多くなる傾向があります。
 このため、上期の営業利益は317億円ですが、下期は278億円の損失を見込んでおり、この結果、通期では39億円の営業利益を見込んでいます。

■平成27年度高速道路事業 営業損益(連結)

単位：億円(単位未満切捨て)

区 分	上期実績 ①	下期見込 ②	通期見込 ①+②	
営業収益	4,419	5,584	10,004	
(うち料金収入)	4,158	3,766	7,925	上期>下期
営業費用	4,102	5,862	9,964	
(うち管理費用等)	988	1,306	2,295	上期<下期
営業利益(損失)	317	△ 278	39	

3. SA・PA事業の営業概況(連結)

平成27年度上期の損益状況

- SA・PA事業については、直営で運営していたガスステーションの一部をテナント運営に変更したことなどにより、営業収益は前年同期比5億円減の234億円、営業費用は前年同期比7億円減の208億円となりました。
- この結果、平成27年度上期の営業利益は、前年同期比1億円増の26億円となりました。

【参考】

個別決算概要(経営成績)

単位：億円〔単位未満切捨て〕

区 分	H26年度 上期実績 A	H27年度 上期実績 B	対前年増加額・率		H26年度 通期実績	H27年度 通期見込 ※
			B-A	(%)		
営業収益	4,424	4,574	150	3.3%	10,528	10,334
高速道路事業	4,256	4,389	132	3.1%	10,239	9,932
(料金収入)	4,012	4,158	145	3.6%	7,774	7,925
(道路資産完成高)	242	228	△13	△5.4%	2,454	1,995
(その他の売上高等)	2	2	0	4.2%	10	11
関連事業	167	184	17	10.4%	289	402
(SA・PA事業)	51	52	0	0.4%	95	96
(受託・その他の事業)	115	132	17	14.8%	193	306
営業費用	4,126	4,243	116	2.8%	10,522	10,329
高速道路事業	3,969	4,065	95	2.4%	10,241	9,929
(道路資産賃借料)	2,772	2,884	112	4.0%	5,601	5,673
(道路資産完成原価)	242	228	△13	△5.4%	2,454	1,995
(管理費用等)	955	951	△3	△0.3%	2,184	2,260
関連事業	156	177	20	13.3%	281	399
(SA・PA事業)	41	43	1	4.7%	87	88
(受託・その他の事業)	115	134	18	16.4%	194	310
営業利益	297	330	33	11.2%	6	5
高速道路事業	287	324	37	12.9%	△1	2
関連事業	10	6	△3	△34.7%	8	3
経常利益	329	366	37	11.3%	44	49
中間純利益	204	247	42	20.9%	24	49

※) H27年度通期見込は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績は様々な要素により、上記の計画と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■トピックス(平成 27 年度上期の主な取り組み)

【高速道路事業(1)】

■新規開通(ネットワークの整備)

首都圏中央連絡自動車道(圏央道) 神崎(こうざき)IC~大栄(たいえい)JCT 間(9.7km)が平成27年6月7日に開通しました。



圏央道 大栄JCT



開通式

■新規開通(スマートインターチェンジ)

観光の振興や救急医療・地域医療の支援、地域の交通利便性の向上、地域産業の活性化などを目的とし砂川市と整備を進めてきました道央自動車道 砂川 SA スマートインターチェンジが、平成27年8月8日に開通しました。



砂川 SA スマートインターチェンジ



開通式

【高速道路事業(2)】

■安全・安心、快適・便利な高速道路に向けた取り組み

・高速道路における老朽化に対応した特定更新等事業の着手

高速道路会社が管理する高速道路における特定更新等工事(更新事業)については、平成27年3月に国土交通大臣から道路整備特別措置法に基づく事業許可を受け、平成27年度より事業に着手しました。なお、全社的に同事業の推進を図ることを目的に本社に「特定更新等事業推進会議」を設置しました。

・重量超過車両に対する取締りの強化

道路構造物の劣化に多大な影響を与えるとともに、重大事故を誘発する可能性のある重量超過車両について、一定重量以上の悪質な違反に対する「積荷の軽減措置」や高速道路機構との連名による警察機関への告発などの取締りの強化を実施しています。



更新事業(床板取り替え工事イメージ)



取締りの強化(積荷の軽減措置)

【関連事業】

■SA・PAのリニューアル

常磐自動車道 守谷SA(下り線)を、道ナカ商業施設「Pasar 守谷(下り線)」として、平成27年7月1日にリニューアルオープンしました。やさしさを感じる曲線を用いた建物や木のぬくもりを感じる意匠により、お客さまに安らぎを感じていただける空間を演出しました。



常磐道 守谷SA(下り線) オープン



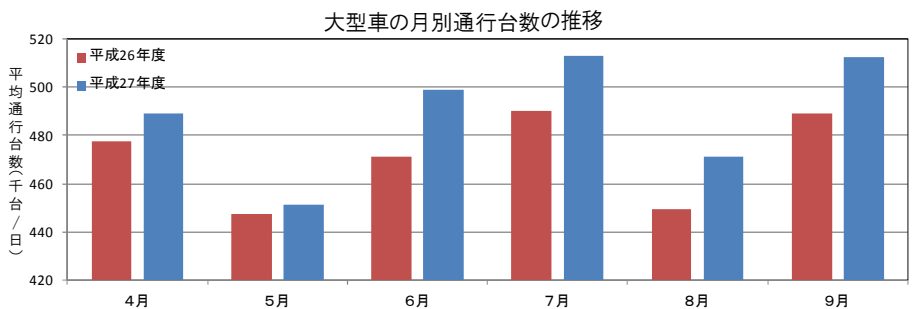
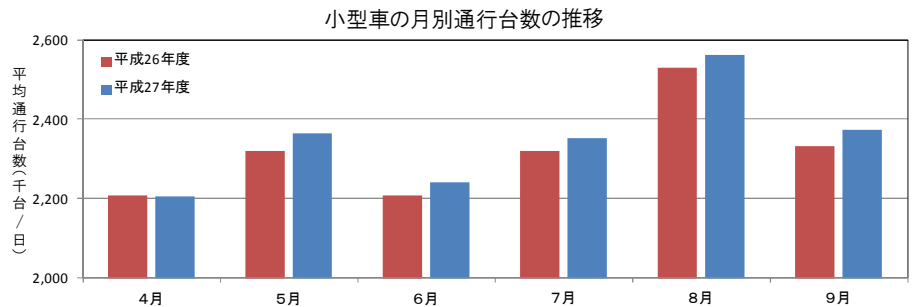
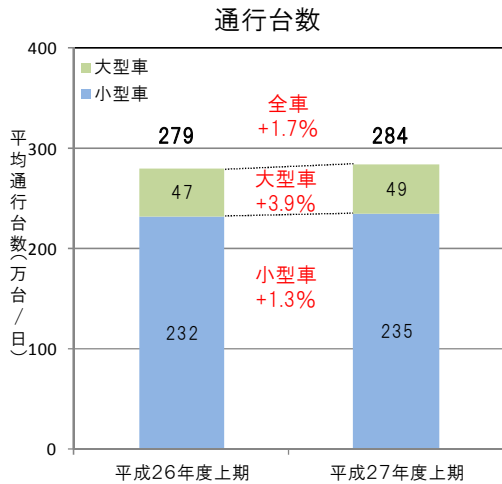
常磐道 守谷SA(下り線) 外観

平成27年度上期の営業概要（通行台数）



(1) 通行台数(前年度比)

通行台数は284万台／日となり、前年度に比べて1.7%増加しました。車種別では、小型車は1.3%、大型車は3.9%それぞれ増加しました。



平成27年度上期の営業概要（SA・PA店舗売上高）



(2) SA・PA店舗売上高(前年度比)

SA・PA全体の店舗売上高は772億円となり、前年度に比べて2.2%減少しました。内訳としては、飲食・物販は1.0%増加、ガスターションは10.0%減少しました。

